

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	広島大学
整理番号	B-II-3
事 業 名	国際大学間コンソーシアム INU を活用した、平和・環境分野における協働教育

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p>本事業は、国際大学間コンソーシアム（INU）を活用した協働教育プログラムとして、またサマースクール、ダブルディグリー・プログラム、学生交流、キャンパスの国際化など、幅広い活動への取組として高く評価できる。</p> <p>交流プログラムの枠組みについては、採択時の計画に基づき、事業が着実に実施されたこと、また、中間評価で指摘された不十分な英語力強化方策や遅れていた相手大学との協定締結に関して、2週間程度の短期派遣プログラムである START プログラムをはじめとした海外留学事業の充実・拡張や新たな5大学との協定締結といった積極的な取組が見られたことは高く評価できる。一方、従来からの交換留学や短期語学研修との違いや、スーパーグローバル大学創成支援との切り分けが不十分であるように見受けられた。</p> <p>質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成については、全学統一基準の GPA 導入やシラバスの英語化、チューターによる履修状況確認など、一定の取組とその成果を見ることができた。一方で、ルーブリックやeポートフォリオの実際の運用とそれによる成果については、更なる活用の検討が望まれる。</p> <p>外国人留学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備については、入学前からキャリア支援に至るまで、サポート体制は十分に整備されていたと言える。</p> <p>事業の実施に伴う大学の国際化については、全学の国際戦略、国際化に係る意思決定体制がよく整備されており、事務体制や情報管理に関しても国際化が進められた。</p> <p>目標の達成状況については、学生の英語力の強化、サマースクール、START プログラム、交換留学など、全般的に数値目標を十分達成することができたと評価し得る。</p> <p>今後の展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献については、国際コンソーシアムの活用、Internationalization at Home という理念の普及、日本語化された BEVI（留学の学習成果分析）の普及など、多くの可能性を持つと期待される。また、学生の英語力強化や基盤部分への取組の充実も図られている。構想当初からのメインテーマである「平和」分野、「環境」分野については、取組がなされているものの、その成果がはっきり見えづらい面がある。有意義なテーマであり、今後の成果を期待する。なお、大学間交流の枠組みや、大学の国際化において、他事業との重複が見受けられた。今後は、本事業独自の成果を上げるとともに、「平和」「環境」に関する教育に一層取り組むことが望まれる。</p>